

2016年2月7日(日)朝10:10～

降誕節第7、全体会合等

2月第1聖餐総員共同主日礼拝式説教

日本アライアンス庄原基督教会

説教題：私たちの信仰告白は

聖書:ヨハネ 6章1～15節

＜口語訳＞

新約聖書145頁

ヨハネ 6章1～15節

＜新共同訳＞

新約聖書174頁

ヨハネ 6章1～15節

＜新改訳第3版＞

新約聖書184～185頁

ヨハネ 6章1～15節＜塚本訳＞

新約聖書287～288頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇ヨハネ書は、ヨハネがヨハネ書1章14、18節で記録しているように、「ことばが人となった」**神の御子イエス・キリスト**の証言録です。

◇ヨハネ書には、7つのしるし(奇蹟)が記録されていますが、それが「ことばが人になったお方」＝「**神の御子キリスト・罪からの救い主**」と、「**証言できる証拠**」であると、ヨハネは訴えているのです。

◇ヨハネ書6章1～15節は、**第4回目のしるし**で、**男の数5000人の給食**です。

⇒**教会暦**は、**クリスマス降誕節第7主日**で、**降誕節**は終わり、**2月10日～3月20日**が、**四旬節(受難節・レント)**となります。

⇒**教会暦の説教箇所**が、「**奇蹟を行うキリスト**」となっています。

⇒「**5000人の給食の奇蹟・しるし**」は、私たちにどんな使信を提供しているのかを知りたいと願っています。

⇒「**5章の足が不自由な人の癒しのしるし**」(2)を見た人々が、「**次のしるし**」求めており、時は、「**ユダヤ人の過越祭**」間近という状況でした。

本論；

◇本日、ヨハネ書6章1～15節から主の使信に
思い・心をとめます。

◆ヨハネ6章9～10節；神の御子主イエス様は、
少年が持っていた5個の大麦パンと2匹で、
男数5000人の人々を養い、満腹させて
下さいました。

◇1～13節；塚本訳◆5000人のパン

「9『ここに大麦パン五つと魚二匹持っている
青年がいますが、こんな大勢の人に何の
役に立ちましょう。』

10 イエスが言われた、『人々をすわらせ
なさい。』その場所には草がたくさんあった。
そこで人々がすわった。その数、男五千人
ばかり」と、ヨハネは記録しています。

⇒神の御子主イエス様は、5～7節で弟子の
ピリポを「試して」おられ、ピリポは、大勢の
群衆を見て、200デナリ<200日分の労賃と
言われる金額>の費用が必要であるとの応
答を引き出しておられます。

⇒弟子アンデレは、少年の持つ5個のパンと
2匹の魚を神の御子に提示します。

⇒**ピリポとアンデレ**は、ともに、「**5000人の給食**」が、自分たちには不可能であるとの発想では同じです。

⇒**神の御子**は、「**ピリポとアンデレ**」が、「**自分ではどうするか、わかっておられた**」のです。

◇9～10節；「**大麦パン五つと魚二匹**持っている青年がいます」が、「**こんな大勢の人に何の役に立ちましょう**」、「**イエスが言われた**」、「**人々をすわらせなさい**」と、**神の御子**は、**アンデレの提案**を聴きつつ、「**人々をすわらせなさい**」と、命じています。

⇒ここに、「**私たちの神信仰**」が、問われる要因があります。

⇒**神の御子**は、**ピリポやアンデレ**に代表される人間の基本的発想を知り尽くしておられますが、「**人々をすわらせなさい**」と、2人の視点を変え、大勢の群衆から「**神の御子のことば**」に、**心の目・思い**を向けるよう、命じておられます。

⇒**神の御子**は、**ピリポとアンデレ**らが、「**5000人の給食**」は、**神の御子の自己証言**であることに気づき、自分たちの無能を告白し、**神の御子のわざ**に与る備えを求めておられます。

◆ヨハネ6章11～13節；神の御子主イエス様は、弟子たちの手を用いて、感謝とをもって、5000人の人々の養いをなさりたいのです。

◇1～13節；塚本訳◆5000人のパン

「11 するとイエスは(いつも家長がするように、)そのパンを手に取り、(神に)感謝したのち、(裂いて、)坐っている人々に分け、魚も同じようにして、ほしただけ分けておやりになった。

12 人々が腹一ぱい食べると、弟子たちに言われる、『余った(パンの)屑を集めなさい、すこしもむだにならないように。』

13 そこで集めると、人々が食べのこした五つの大麦パンの屑で、十二の籠がいっぱいになった」と、ヨハネは記録しています。

◇11～13節；「(いつも家長がするように)」、「そのパンを手に取り、(神に)感謝したのち、(裂いて、)坐っている人々に分け、魚も同じようにして」、「ほしただけ分けておやりになった」ので、「人々が腹一ぱい食べる」、「弟子たちに言われる」、「余った(パンの)屑を集めなさい、すこしもむだにならないように」、

「集めると、人々が食べのこした五つの大麦パンの屑で、十二の籠がいっぱいになった」と、ヨハネは記録しています。

⇒**神の御子**は、先ず、「**大麦パン五つ**」を取り、「(神に)**感謝** εὐχαριστέω」して、これを裂き、また、「**魚二匹**」も裂き、「**人々が腹一ぱい**」になるまで、「**ほしだけ分けておやりになった**」のです。

⇒**ヨハネ書**には、記録されていませんが、**マタイ14章19節**には、「**裂いた大麦パン五つと魚二匹**」を弟子たちに渡されたとあり、弟子たち手によって、「**5000人の給食**」のしるし・奇蹟は成し遂げられています。

⇒「**感謝する** εὐχαριστέω」⇔「**感謝している** εὐχάριστος」⇔英語の「eucharist」に転じ、「**聖餐**」という意味の教会用語として、英国の教会では、教会の掲示板に、教会の聖餐の案内用書き出されているそうです(**KT師**)。

⇒**神の御子**を裏切り、十字架につけよと叫ぶことになる群衆や裏切って**神の御子**を棄てる弟子たちのために、「**聖餐 eucharist**」を守り、ご自身を「**過越の小羊**」として示されました。

⇒また、「余った(パンの)屑を集めなさい、すこしもむだにならないように」と、「弟子たちに言われ」、「集めると、人々が食べのこした五つの大麦パンの屑で、十二の籠がいっぱいになった」と、ヨハネは記録するのです。

⇒ここにも、「5000人の給食」の能力がない弟子たちの手を用いて下さる神の御子の恵みが示されています。

⇒「むだἀπόλλυμι」は、「滅びる」を意味することばで、神の御子は、「大麦パン五つと魚二匹」の「余った(パンの)屑を集め」、「十二の籠がいっぱい」になるほど、「むだἀπόλλυμι」にせず、すなわち、「屑」のような「弟子たち」も、「群衆」も、「滅び」ないようにするため、彼らの罪のために十字架の死を背負う神の御子を求め、この寂しい所まで来たひとりひとりを失わないため、(神に)「感謝εὐχαριστέω」し、「大麦パン五つと魚二匹」=「神の御子ご自身」を裂き、「ほしだけ分け与えて」下さったのです。

⇒私たちの信仰告白は、「屑」さえも「むだἀπόλλυμι」にせず、神の御子の弟子たちの手に残し、「神への感謝・聖餐」へ招かれます。

⇒「**残った屑**」は、ユダヤ人の生活習慣と関係があり、「**大麦パン**」が、当時は家畜用だったものを食べたように、貧しい人々を顧みることを人々は、律法の定めを通して知っていたのです(**SY師**)。

⇒**レビ記19章9節**に、畑の「**隅**」々まで刈りつくしてはならないと、書いてあり、**神の恵みの民の定め**で、**神の御子**は、**神の恵みを溢れるほど残して**、刈り取らせて下さったら、「**余った(パンの)屑を集め**」たら、「**十二の籠がいっぱい**」になったのです。

⇒**A.W.トウザー**は、「**神の下さる賜物**」が、「**私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのち**」です(ローマ6:23)の説き明しの中で、「**神はあなたにいのちを与えられるが、なお、あなたに与えるいのちであり続け、あなたに与えても何も失っておられない**」、「**神はそれを与えながら、それを保持している。なぜなら、神が与えられるのは、ご自身だかれである**」と語ります⇔私たちは、「**余った(パンの)屑**」かもしれませんが、**神の御子**は、「**神の永遠のいのちのパン**」・行為するお方です!

◆ヨハネ6章14～15節；神の御子主イエス様は、**真の預言者・救い主メシヤ**として、地上に来て下さったのです。

◇14～21節；塚本訳◆**水の上を歩く**

「14 人々はイエスが行われた徴〔奇蹟〕を見て、『**確かにこの人は、世(の終り)に来るあの預言者だ**』と言った。

15 イエスは人々が来て、自分を(エルサレムに)攫^{さら}って王にしようと計画しているのを知り、自分ひとり、**またも山に引っ込まれた**」と、ヨハネは記録しています。

◇14～15節；「**イエスが行われた徴〔奇蹟〕**を見て、『**確かにこの人は、世(の終り)に来るあの預言者だ**』と言った」、「**自分を(エルサレムに)攫^{さら}って王にしようと計画しているのを知り、自分ひとり、またも山に引っ込まれた**」と、ヨハネは記録しています。

⇒「**あの預言者**」とは、ユダヤ人たちが連想したのは、**申命記18章15節**で予告されていた「**あなたの神、主はあなたのうちから、あなたの同胞のうちから、わたしのようなひとりの預言者をあなたのために起される**」でした。

⇒併し、群衆が求めた「**あの預言者**」は、政治力をもって、ローマ帝国から解放する救済者でした。

⇒**神の御子**は、「**5000人の給食**」のため、ご自身のいのちを与えるとの予告をしるしで示されながら、**15節**では、丘からさらに山へ退かれたのです。

⇔**KT師**は、「**逃げた**」と訳す人もいると、ご指摘ですが、詳細は分かりません。

⇒**15節**で、「**とらえて**」、「**むりやりに連れて**」、「**神連れて行こう**」、「**攫^{さら}って**」と訳されていることばは、「**奪い取るἀρπάζωアルパゾー**」という意味で、強制して、無理やり、連れて行くという意味で、ここでは使われています。

⇒「**5000人の給食**」が、**神の御子**の自己証言であるように、十字架の死も、**父なる神**に徹底して従うのが、**神の御子の立場**でしたから、群衆との距離を取られたのです。

⇒この点でも、**神の子供・しもべ**として、**神信仰**に生きる時、「**神・神の御子・聖霊の心**」を最優先にする知恵を働かせることが必要で、「**永遠のいのち**」は、**神のわざ**のためにある!!

結論；

◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。

◇**ヨハネ書**には、**7つのしるし(奇蹟)**が記録されていますが、それが「**ことばが人なったお方**」＝「**神の御子キリスト・罪からの救い主**」と、「**証言できる証拠**」であると、ヨハネは訴えているのです。

◇**ヨハネ書6章1～15節**は、**第4回目のしるし**で、**男の数5000人の給食**です。

⇒①「**5000人の給食**」は、**神の御子の自己証言のしるしのわざ**です。②**神の御子**は、自分の無能を認め、彼らが提供した「**大麦パン五つと魚二匹**」を先ず受取、「(神に)**感謝** *εὐχαριστέω*」をささげ、弟子たちの手を通して、**神のわざ**を行って下さったのです。③「**余った(パンの)屑を集める**」と、「**十二の籠がいっぱい**」になり、裂かれた「**大麦パン五つと魚二匹**」を配った弟子たちも、その恵みに与れたのです。聖餐は、「**感謝** *εὐχαριστέω*」し、**神の御子**が、「**ご自身のいのち**」を「**神への超越の小羊**」としてささげて下さったゆえに、今の**神信仰**が「**神の永遠のいのち**」に迎えます。